

命の大切さ学習教室に参加して

熊谷雄宇也くんのお母さんに宛てた手紙です。

平成 17 年 11 月 28 日、当時小学1年生の雄宇也くんは、下校途中に乗用車にはねられ意識不明の重体となり、翌 29 日に亡くなりました。



私は、雄宇也くんの パネルを見た時 自分と同じ事故にあったのだと思いました。自分は、こうして生きていますが 雄宇也くんは、この世には、居いと思うと言葉では、表せない気持ちになりました。雄宇也くんのお母さんの話を聞いているときは、自分の弟だったかと思いつつも、聞いていました。そのため、最初から、涙が出てきました。私は、幼稚園の3才のときに母の実家のたんぼ仕事を手伝っていて、たんぼに水を出しに行く 母の祖父についていきました。後ろからゴロゴロと転がる車体目に入り、「あぶない」と言おうとした瞬間、温かいぬくもりを感じ、気づいた時には、亡くなっていました。そして、母の祖父は、亡くなりました。温かいぬくもりは、祖父が守ってくれたんだと今でも信じています。そして、今あたり前に、できていることがある日突然、できなくなるかもしれない、だから、1日1日を楽しく、大切に過ごそうとあらためて、雄宇也くんのお母さんへお話を聞いて思いました。そして、苦しい事にもチャレンジして向きあいたいと思いました。雄宇也くん、天国で見えてくれますか？今日は、雄宇也くんのお母さんから、命の大切さについて教わりました。雄宇也くん、そしてお母さん、ありがとうございました。

学校名

秋田県立

ゆり支援学校

氏名 ※氏名を出さない方は記入しないでください。

梶原 立希

より

命の大切さ学習教室に参加して

熊谷雄宇也くんのお母さんに宛てた手紙です。

平成 17 年 11 月 28 日、当時小学1年生の雄宇也くんは、下校途中に乗用車にはねられ意識不明の重体となり、翌 29 日に亡くなりました。



今回、命の大切さ学習教室の講師としてお越し頂きありがとうございます。
雄宇也くんのお母さんの話を聞き、事故で急に大事な人を奪われる大きな恐怖を感じ、車や自転車での安全運転への関心をもて聞いていました。

普段から自転車に乗っていて「左右確認」「車道走行」等、可能な限りの安全運転を心がけています。しかし十字路の曲がり角などでの見えない場所で数回歩行者と衝突しそうになった時があります。幸い、どちらも危険を回避できましたが、これは小回りが交か自転車だからという場面でもありました。しかし車では状況が違います。いくら歩行者が気を付けていても、運転手側のミスで命が奪われてしまいます。

突然の出来事で雄宇也くんが居なくなる事がどれだけの悲しみかはわかり知れません。今回の話を聞いた16人は皆、雄宇也くんへの気持ち、車や自転車の安全運転への関心は同じです。これから大人になる私たちの命の大切さを教えて頂き、改めてありがとうございます。そしてこれからもお体に気を付けて元気で長生きしてください。

学校名

秋田県立中沢支援学校

氏名 ※氏名を出さない方は記入しないでください。

遠藤 陽太

より

命の大切さ学習教室に参加して

熊谷雄宇也くんのお母さんに宛てた手紙です。

平成 17 年 11 月 28 日、当時小学1年生の雄宇也くんは、下校途中に乗用車にはねられ意識不明の重体となり、翌 29 日に亡くなりました。



雄宇也くんのお母さんへ。 私達に、命の大切さ、そして 重さを 教えてくださり、ありがとうございます。 18年たっても消えない傷を負ってしまったことは私達には本当にその傷をまだ癒いけんしていないので、どうしようも出来ませんが、苦しい思いをかかえて生きるというのは、すごく息がつかまると思います。 それでも「誰かに伝え続ける」とても大切な命だったから、できることだと思います。 雄宇也くんは亡くなってしまったけれど、雄宇也くんのお母さんが伝え続けることで、私達の心に 雄宇也くんは 生きられました。 それは、お母さんが雄宇也くんを今も「生かしてくれているから」と私は 思います。 亡くなった人の名前 は、誰かが愛した人の名前。だから、きっと私は この学習教室で聞いたことを 忘れることはないです。 人生を共に歩めなくなっても、その場に居なくても、覚えていればきっと 雄宇也くんも 生きつづけられます。 本当に、支えてもらってるんだ。という感謝の気持ちを忘れずに伝えてみようと思いました。

学校名

秋田県立 かり支援学校

氏名 ※氏名を出さない方は記入しないでください。

井上 桜子 より

命の大切さ学習教室に参加して

熊谷雄宇也くんのお母さんに宛てた手紙です。

平成 17 年 11 月 28 日、当時小学1年生の雄宇也くんは、下校途中に乗用車にはねられ意識不明の重体となり、翌 29 日に亡くなりました。



先日は高等部3年生のために、横手から来てくださりありがとうございました。今回のお話を聞いてわすか7歳で亡くなってしまい、自分も悲しい気持ちになりました。私は事故をおこしたりはねられたり...などは経験したことはありませんが、「ただいま」が聞けないまま天国にってしまうのはやっぱり、立ち直ることができないと思います。雄宇也くんはきっとあの日事故になると思わずにいたと思います。人は、事件や事故を起こすと最悪の場合亡くられるケースがあるので、改めて怖いと感じました。会いたくても会えない、話したくても話せないから生きているのがつらいなこともし、自分なら思いました。今回の話で、友達がすく号泣で感想を発表していて私も泣きそうになりました。

今、自分が生きていることがこんなに幸せなことを改めて実感しました。家族や支えてくれている人に感謝の気持ちを忘れずにくらしたいです。

学校名

秋田県立の皮援学校

氏名 ※氏名を出さない方は記入しないでください。

佐々木 愛莉より

命の大切さ学習教室に参加して

熊谷雄宇也くんのお母さんに宛てた手紙です。

平成 17 年 11 月 28 日、当時小学1年生の雄宇也くんは、下校途中に乗用車にはねられ意識不明の重体となり、翌 29 日に亡くなりました。



今回この学習に参加して、改めて自分の、たったひとつしかない命の大切さについて考えさせられた瞬間だったなと思いました。小学1年生という、まだ幼くて、雄宇也くんのお母さんにとってとても尊い存在だった我が子が、運転手の不注意で起こった事故に巻きこまれて亡くなる、お話を聞いた時は私自身、すごく悲しく、心が痛くなる出来事だと思ったし、なにより自分が一番大切にしている子どもを失った悲しみはどんなことよりも変えがたいと感じました。誰かがいなくなる、そしてその人と関わりの深い人々が長く悲しみに暮れてしまう、私も似たような出来事を経験したことがあります。正直、たえられないし信じられないです。今回の学習内容を忘れずいつまでも胸にとめて生きていきたいと思います。交通事故で亡くなる命がない未来を願います。今回は貴重な時間を、本当にありがとうございました。

学校名

秋田県立ゆり支援学校

氏名 ※氏名を出さない方は記入しないでください。

佐藤 優菜 より